

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	仙台・東北地域は、消費税率引き上げ後の反動減からの回復が依然弱い。また、求人は好調であるが、賃金が大きく上昇しない状況に加え、高値推移の燃料価格や復興需要の減少により、消費は抑制傾向にある。さらに、原材料価格高騰に人材不足も加わり、企業収益は減少が見込まれ、企業の投資は抑制傾向にある。この状況は多くを中小企業が占める仙台・東北地域の経済を停滞させる懸念がある。一方、震災以降仙台・東北地域では、新規起業・創業が増加傾向にあり、こうした新しい取組みを促進することにより、地域経済の好循環を図っていく必要がある。国においては、国家戦略特区等の取組みを通じて地方の意欲ある取組みを支援していただきたい。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	地域創生を推進する上では、その要となる推進本部が、他の省庁と対等の立場で交渉し得るよう、しっかりとした位置づけや権限・財源の付与といった後ろ盾を持つことが不可欠。縦割りの弊害を排して「霞ヶ関創生」を図りつつ、太い政策の柱を構築すべきである。 地域活性化については、地方の創意が基本となることは勿論だが、国においても、首都圏一極集中のベクトルの修正を図る思い切った手立てが必要。法制や税制におけるインセンティブの付与や、保育や介護などの地域密着型の分野の賃金引上げを誘導し域内循環の起爆剤とするなど、直接的なプログラムを検討すべき時期にきている。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	最近の急激な円安の進行により、さらなる輸入原材料の高騰が懸念され、特に燃料価格は下落傾向にあるが依然高値で推移していることから、この状況が続けば、本格的な冬を迎える仙台・東北地域の市民生活に大きな影響を与え、消費抑制や景気減速につながる恐れがある。一方、円安効果により海外からの観光客が全国的には増加傾向にある。しかし、仙台・東北地域では、風評被害もあり震災前の水準を超えるまでは増加していない。このため、東北地域が一体となって外国人観光客の誘客を図っているが、国においても輸出型産業が少ない仙台・東北地域でも円安の効果を実感できるよう、東北への外国人観光客の誘客に向けた施策に取組んでいただきたい。